

1. 【極座標系と角運動量】

直交座標 (x, y, z) を用いて、極座標 (r, θ, ϕ) を

$$x = r \sin \theta \cos \phi, \quad y = r \sin \theta \sin \phi, \quad z = r \cos \theta,$$

$$r = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}, \quad \tan \theta = \frac{\sqrt{x^2 + y^2}}{z}, \quad \tan \phi = \frac{y}{x},$$

と定義する。

(1) 角運動量演算子 \mathbf{L} が

$$\mathbf{L} = -i\hbar \mathbf{r} \times \nabla,$$

と与えられているとき、極座標系での角運動量演算子が次のように与えられることを示せ。

$$L_x = i\hbar \left(\sin \phi \frac{\partial}{\partial \theta} + \cot \theta \cos \phi \frac{\partial}{\partial \phi} \right),$$

$$L_y = -i\hbar \left(\cos \phi \frac{\partial}{\partial \theta} - \cot \theta \sin \phi \frac{\partial}{\partial \phi} \right),$$

$$L_z = -i\hbar \frac{\partial}{\partial \phi}.$$

(2) 昇降演算子 $L_{\pm} = L_x \pm iL_y$ を計算しなさい。

(3) 全角運動量演算子 $\mathbf{L}^2 = L_x^2 + L_y^2 + L_z^2$ を計算しなさい。

2. 【動径運動量と角運動量】

まず、古典力学の範囲で考える。

(1) 二つのベクトル \mathbf{A} と \mathbf{B} の外積についての公式

$$(\mathbf{A} \times \mathbf{B})^2 = \mathbf{A}^2 \mathbf{B}^2 - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{B})^2,$$

を示せ。これを用いて、角運動量 $\mathbf{L}^2 = (\mathbf{r} \times \mathbf{p})^2$ を \mathbf{r} と \mathbf{p} の内積表示に書き表せ。

(2) 動径方向の運動量を $p_r = (\mathbf{r} \cdot \mathbf{p})/r$ と表すと、ハミルトニアン $H = \mathbf{p}^2/(2m)$ は、

$$H = \frac{p_r^2}{2m} + \frac{\mathbf{L}^2}{2mr^2}$$

と書けることを示せ。

次に、量子力学に移行し、同様の考察を試みる。

(3) 座標演算子 \mathbf{r} と運動量演算子 \mathbf{p} 、および角運動量演算子 $\mathbf{L} = \mathbf{r} \times \mathbf{p}$ が、

$$\mathbf{L}^2 = \mathbf{r}^2 \mathbf{p}^2 - (\mathbf{r} \cdot \mathbf{p})^2 + i\hbar (\mathbf{r} \cdot \mathbf{p})$$

を満たすことを示せ。

(4) 動径座標演算子 r と動径運動量演算子 $p_r = -i\hbar \frac{1}{r} \frac{\partial}{\partial r} r$ との交換関係が

$$[r, p_r] = i\hbar$$

となることを示せ。

(5) ハミルトニアン

$$H = -\frac{\hbar^2}{2m} \left(\frac{\partial^2}{\partial x^2} + \frac{\partial^2}{\partial y^2} + \frac{\partial^2}{\partial z^2} \right)$$

が

$$H = -\frac{\hbar^2}{2m} \left(\frac{1}{r} \frac{\partial}{\partial r} r \right)^2 + \frac{\mathbf{L}^2}{2mr^2}$$

と書けることを示せ。

3. 【中心力場ポテンシャル】

(1) 座標演算子 \mathbf{r} と運動量演算子 \mathbf{p} に対して、次の二つの交換関係が成り立つことを示しなさい。

$$[L_i, p_j] = i\hbar \epsilon_{ijk} p_k, \quad [L_i, r_j] = i\hbar \epsilon_{ijk} r_k,$$

(2) 中心力場におけるハミルトニアン

$$H = \frac{\mathbf{p}^2}{2m} + V(r)$$

と角運動量演算子 \mathbf{L} との交換関係 $[\mathbf{L}, H]$ を計算しなさい。

(3) シュレディンガー方程式

$$i\hbar \frac{\partial}{\partial t} |\phi(t)\rangle = \left[\frac{\mathbf{p}^2}{2m} + V(r) \right] |\phi(t)\rangle,$$

を満たす波動関数 $|\phi(t)\rangle$ による角運動量演算子 \mathbf{L} の期待値 $\langle \mathbf{L} \rangle$ の時間変化 $d\langle \mathbf{L} \rangle / dt$ の値を求め、この結果の物理的意味を議論しなさい。